當世利口女

服部氏著

定價壹匁六分

A 76

眉毛を京紅笑へば
耳環と新の網代
迷物主男ふるる乳をもて
女ふ附よ三ツ子あり

日本　利口女

48-7700

當世利口女

万亭　服部孝三郎著

○

童々日本の泰平の御代に生て物讀書のさえざえ
ならぬ身で某の妻とおさて眉を刺歯を染しゲ
此頃弥らーきことを見聞せーあるわ。女の眉毛
をそると歯を染るを。りのわ譬て戒ー冊紙を見
しが。なるまぬ身わて他の是非をいそおとなるもど
も愛國の為まさいそのの戒あ人身をへいとをあり

昔能因という歌よこ名所の歌をふと考ゑしが此
を家ゐなれ披露してゐる其情薄しとそよう旅枕に
出るとてうゝ。家ゐ籠りて毎日窓より首をさしいだして
顔を日に黒色つ。やがて旅より戻りて躰にて
○あるをば霞とたゐ出しうど秋風ぞふく川の
関という歌を披露みせうべその顔の垢つたる
見る人。君ゐ能因ゐかあらで垢人ありと笑ひましとの
物語りにつりそとあまきこゑ違へども其眉と歯のとを
世上ゐ弘めんとて人。已妻ゐふうゝび春霞の眉を

かうせ。又その歯を磨せうとの風説
あり。かの歌よこの顔を黒めしといちがひて他を示に
自ゐり改るい當然のとなり考へて后世上へ弘め
し冊紙の趣意の要を摘でいえん。そも西洋人の説に
眉毛い黛く歯の白きを婦人の面色を飾るさめ
造物主の特ゐ意を用ひしのなり殊ゐ眉毛
い面の飾のこるゝび光線の過劇を防ぐさめの要
具ゐり人ゐ眉毛ゐきとそを大陽の光線を上より
直ゐ目ゐ受て眼病の源因とかゝると多し故

熱帯寒帯の土地あり眉の濃薄あり新
造物主の深き趣意なる眉ありと云此説いま
る西洋人の吐出せしや心智開明の時なれども
なほ如きなるとぬ身あり聞てを更あ合點もなほ
仰天の覆ひ地の限りの大世界あい國々數多なる
其國々の掟風俗も萬國ひとしなべ茲あ座を
禮義あるとぐ一つあさあ立礼義あり其外替ることい
さまざまあり譬へば両眼の國の人一眼の國あらべ
かさとといたとしたる一眼の國の人両眼の國あなる

びさかさとといたんさまとまるさまるべ
かさまるぬもかさとまるいの國をべろのとあるべ
や日本の妻室い古より眉を刺歯を染ひい私ぞあ
なべ國の風俗あ定まりて今日あ至まで眉あた
女巨満あとども眉無さめあ眼を日あやうまて盲
目となりさる者もるく眉あたもへ眼が痛とあ
ものをざあ聞ざとだ今更西洋の利辯あ豪草
さる業いあるとも今まで痛まぬ眼が今より痛
もせもとあまあ類まあとあり諸人のうるむ眼の

家作の庇を放べ
雨雪ふ害あるべ
目前ふ落る
眼の庇を
刺し女い
数多
あるとども
ちのこめふ盲目となり
眼の痛むこゝろのを
聞べ

「太陽の光劇を
防ぐ眉毛を附る男ふ

あゝ盲ゲ
あるまたぞ

西洋人
日本の地ふ
居留し
面頰要具の
髭を刺

西洋のまゆをしたひげを
そろそろさんざのこゝろ
ちろふうつたがよの
ことぐい様ちろも
さぞ
よろろう

脂を喰ふ者多きゆゑ煙のうちふを其人筋を常ふ吸へどつゐふ害るをしまさまび西洋の人己ゞ國の風俗をもつて他國の風俗の是非をいふことなれるゞ日本の人情いさゝ造物主の産付る麗しき眉とゝ歯とゝ今となりてを其年配ふもつて美とも見へ醜もありさまび衣裳でもつ幼い似合あり長年ふ似合あり老年ふ似合あり其人柄ふもつて似合とわあざる縞色目ある書面のしるしあるさび今ゝのうめしふ雖がれ

さる顔へ眉を描き三ッとゝむ老衰白歯ふそまだとて化物と見る者あるともいろゞ美人と見るあるあるんやさて造物主勢帯寒帯の土地ふもつて眉毛の濃き薄きを附属をるとゝ行るゞかゞ度の我國中ふ濃薄き眉あるをゞ見て知るべしそもとも

あ是眉毛い刺ねゞ元の如く歯も磨けゞ白く何時改るゆをる是ばゞ人の女藝者の新造顔も翌日い内儀の年間顔となり又日あるゞ内儀顔ふ眉をたゞ歯を白めて二度三度の排ふ

うを安々とども外國ゐい是ようも甚しき惜ずりそを天の産つけぬ金環を耳へためて父母れ庁身の身躰へ疵をつけさえ耳の輪を取ばそ疵の痕生涯ゐ癒ることそれさえ身ゐ害もるけどゞ國の風俗とそ。その外造物主の生付し馬の嚢の玉さえ人知ゐ抜取て騎兵或い馬車ゐ驅使そうふその身ゐ害なく業ゐ利あるを見れバるんぞや人の眉毛を刺を天の罪人といゑや誠ゐ他國の善事及び食物機械等を受る者い已ゐ其利害を試して

考へしそのうえ施行そゐを識者とものへさもなく浮意ゐ教へみちびくゞい宝貨ゐ費あるのみゐにくだ是も西洋ゐ也も西洋と西洋の二字ゐわざされて一人の虚を萬人実ゐ傳ゐ既ゐ是等のこと い西洋人も諭語あり○新聞雑志七十六号四葉五葉を見よ此外珎らしきことをさゞぐ聞とゆえどもゆゑぐ國のことそゝ百が一を学もせゞ殊ゐ外國へそ渡らゞとゝ渡れバとて生國の事さえ一生ゐい学がさ身をるんぞ五年や七年彼の地ゐあれどとて其地のこれを

よく学び得難そうなる國に在留せる他國人
かるべきことなり。余暇あらばまづしもらふことあまど
まづあらふを女の身にかなへ眉と歯のことをいふ
りつるいが意に謬あらんを誰にても教へて心まよ
王土に住身い政府に出るい何等に是非をいたん
さるさに私として國の風俗に悖り世上の普通
に異なる者いらしが渠こそ反て吾國のかさとも
とこそまの思ふぞ穴賢

當世利口女

新塾

鬼美談語

服部氏著
万亭應賀著

明治六年三月
書肆 山嵜屋清七

010190523000